

聖学院大学総合研究所 組織神学・伝道研究会主催
2021年度第2回 組織神学・伝道研究会

「李鐘聲の終末論」

発題：ナグネ（聖学院大学総合研究所特任教授）



発表者：ナグネ特任教授

去る2022年3月25日（金）午後1時半より、聖学院大学のエルピスホールにて2021年度の第2回目の組織神学・伝道研究会の研究会が開催されました。発表者は、本学の総合研究所特任教授のナグネ（洛雲海）先生で、内容は「李鐘聲（イ・ジョンソン）の終末論」をめぐるものでした。

まず、発表者のナグネ先生について簡単に紹介しておきますと、ナグネ先生は1964年生まれの日本人で、東京神学大学大学院（修士）終了後、韓国・延世大学で学ばれ、その後韓国政府招請奨学生として長老会神学大学校（PUTS）大学院の博士課程に進まれ、神学博士を取得されました。その後研究員を経て、2011年より同大学校の外国人専任教授（組織神学）を務められ、2021年4月より本学の総合研究所特任教授に着任されました。

また李鐘聲先生についても簡単に紹介しますと（以下、ナグネ先生の紹介文より）、李先生（1922–2011, Ph.D.）は現代韓国のキリスト教神学界を代表する組織神学者で、PUTSの学長を3期務め、PUTSをアジア最大の神学大学に発展させました。また「統全的神学（Holistic Theology）」を提唱し、PUTSの神学路線を決定づけた人でもあり、生前に40巻の神学著作全集を刊行しています。略歴は、1951年に日本神学専門学校（現東京神学大学の前身）を卒業後、米国のフラー、ルイビン、プリンストン、サンフランシスコ等で学ばれ、学位を取得されました。なお、日本神学専門学校の同期に

は故佐藤敏夫先生や故古屋安雄先生がおり、また本学の元理事長の大木英夫先生は後輩に当たります。

この度のナグネ先生の発表は、李先生が残された膨大な著作集の中から「終末論」を取り上げ、その神学思想の開示を試みられたものです。まず、発表原稿に基づきその流れを紹介します（なお、発表原稿とは異なり、「章」と「節」という表記を 사용합니다）。

I 内容あるいはその構成と方法

第1章 伝統的終末論

第1節 時空の中に存在する神

第2節 個人の終末

第3節 宇宙的終末論

第2章 キリスト教歴史哲学

第1節 神の国と歴史

第2節 キリストと歴史

第3節 歴史観の形成

第4節 歴史観の七類型

II 特徴と評価

以上がおおまかな流れですが、内容は非常に広範にわたるもので、それは李先生の「統全的神学」を具体的に展開するものとなっています。まず、何よりも、神学でありながら、神学の分野にのみ留まらず、哲学や宗教学はもとより他宗教や自然科学の諸分野にまで射程を拡げ、広大な領域に渡るものとなっています。しかし、それはまた同時に、その全体を聖書の価値判断を基準として捉えなおそうとするもので、非常にスケールの大きい神学となっています。紙面の関係で詳論はできませんが、たとえば、この終末論でも重要な議論となっている「歴史観の七類型」のところでは、「輪廻説による歴史観」（インド宗教と仏教）、「決定論的・運命論的歴史観」（ストア学派等）、「二元論的歴史観」（ゾロアスター教等）、「直線的歴史観」（ユダ

ヤ教)、「中心的歴史観」(O. Cullman)、「重複する歴史観」(G. Ladd)という6つの歴史観を批判し、また一部評価しながら、最終的に「螺旋的歴史観」が主張されています。しかし、ここで重要な点は、「螺旋的歴史観」のみを正しいとするのではなく、それに先立つ6つの類型も、それらに見られる肯定的要素をできるだけ積極的に吸収する仕方、螺旋的歴史観にいわば統合していく点にあります。そのようにして、従来であれば非聖書的・非キリスト教的であるとして排除されてきたものを、むしろ積極的に吸収・統合するところに、李先生の終末論(そして「統全的神学」)の大きな特色があります(その一つに、霊魂不滅論もあり、研究会後の座談会でも話題となりました)。

このような神学は、ナグネ先生自身が、その発表の最後にまとめられているように、一方では「曖昧性」という問題を残すとも言えます。しかし、ナグネ先生は、それをむしろ良い意味で、積極的に受け止めることが大切であると指摘されています。というのも、それはまた、もう一つの特色として指摘されている「柔軟性」と深くつながっているからです。すなわち、この「統全的」ということは、特定の理論や立場に固執するのではなく、むしろ広く開かれた態度(思考)のことであり、それは有意義な議論と形成をもたらす「柔軟性」を生み出していくことにもなります。そのため、そうした態度・思考というのは、多様な多元的世界と言われる現代社会においては、今後ますます重要な視点となっていくように思われます。

今回の参加者は、年度末の忙しい時期でもあり、当初の予定より少ない11名の参加でしたが、新しい視点に触れることのできる実に有意義な研究会となりました。以上、ご労苦を取られたナグネ先生に心より感謝しつつ、研究会の報告とします(なお、ナグネ先生の発表原稿は研究所の紀要69号に掲載される予定です)。

(報告者: 菊地 順 [きくち・じゅん] 聖学院大学政治経済学部特任教授)

本

書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

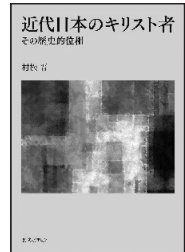
近代日本のキリスト者

—その歴史的位相

村松 晋 著

2020年12月25日発行
4,950円(10%税込)

近代日本におけるキリスト者の信仰・思想を、時代社会をふまえて内的に明らかにする。



近代日本キリスト者との対話

—その信の世界を探る

鵜沼裕子 著

2017年9月28日発行
3,300円(10%税込)

信仰主体の信仰と思想・行動の内的構造連関を共感的に再把握する。



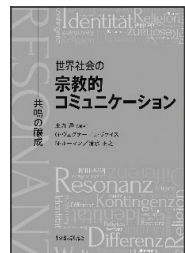
世界社会の 宗教的コミュニケーション

—共鳴の醸成

土方 透 編著

2020年3月10日発行
3,520円(10%税込)

誰もが共存を欲し、しかし自己の優越性は疑わない世界社会。宗教間の共鳴は可能か。



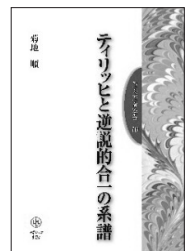
聖学院大学研究叢書10

テリッヒと逆説的合一の系譜

菊地 順 著

2018年6月25日発行
9,350円(10%税込)

テリッヒは、神と人間との〈逆説的合一〉の深みから、〈存在への勇氣〉を語る。



聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324
URL:https://www.seigypress.jp